

学 校 名	山形市立出羽小学校	校長	石川成行
	山形市大字漆山 TEL	研究主任	坂本弘子
研 究 主 題	一人ひとりが輝く学校 (2年次) ～学びが見える子どもと教師、学びを実感する子どもと教師をめざして～		
	「学びが見える…」 → ねらいに向かうプロセスや学び方を意識しながら、学習活動に取り組む子ども。子どもの実態や教科の特性を十分に考慮し、めざす姿に向かってその活動を支援する教師。 「学びを実感する…」 → 試行錯誤の中で、わかった、できたという満足感を得たり、学習プロセスを少しずつクリアしたりしながら自分の伸びがわかる子ども。その小さな変容を逃さず評価し、子どもと学びの楽しさを共感し合う教師。 全体構想 <pre> graph TD A([児童の実態]) --> B[つけたい力 伸ばしたい力] B --> C((授業)) C --> D([評価]) D --> A E[教科の特性] --> A E -.-> C F[支援] --> C F -.-> D G[教育目標] --> A G --> D </pre> The diagram illustrates the overall concept of the study. At the top is '児童の実態' (Children's Actual State). Below it is 'つけたい力 伸ばしたい力' (Strengths to be developed). This leads to '授業' (Lesson), which leads to '評価' (Evaluation). '評価' has a feedback loop back to '児童の実態'. To the left, '教科の特性' (Characteristics of the Subject) points to '児童の実態' and has a dotted arrow to '授業'. Below '教科の特性' is '教育目標' (Educational Goals), which points to '児童の実態' and '評価'. To the right of '児童の実態' are three diamond-shaped boxes: '未経験なことに對する挑戦意欲が低い。' (Low challenge desire for unfamiliar things), '周囲の言動を気にし、自分を表現できない子が多い。' (Many children are concerned about others' words and actions, and cannot express themselves), and '自分の判断に自信を持って行動できず、指示待ちが多い。' (Many children lack confidence in their own judgment and wait for instructions). Below these is a box for '支援' (Support), which points to '授業' and has a dotted arrow to '評価'.		

研究の内容

- ① 一人ひとりの発達や個性の違いに目を向けた児童理解に努め、それぞれの子どもの実態に応じた配慮や支援の仕方を研修する。
- ② 子どもの実態や教科の特性から子どもにつけたい力を明らかにし、学びが実感できる授業を工夫する。
- ③ 単元と基礎基本の関係が見える評価マトリックスを作成する。
- ④ それぞれの授業での評価の観点を考えていく。
- ⑤ 子どもが伸びる通知表の内容について探っていく。

子どもの姿から学ぶ研究授業

授業作りの視点

- ・ 一人ひとりが課題に向き合い、体験や操作活動などを通して主体的に学ぶ学習プロセスを大切にする。
- ・ 学びを広げる、高める交流活動を積極的に取り入れていく。
思いや考えの伝え合い、異集団・異年齢の人たちとの交流 …
- ・ 自分の活動のプロセスを自覚し、伸びを実感できるふりかえり活動を工夫する。

研究計画

4月	今年度の研究の方向性の確認 評価マトリックス作成 通知表の内容検討
6月～12月	授業研究 通知表のふりかえり(内容の吟味)
6月	校内研修会 特別支援を要する児童の理解とその支援のあり方について
7月	校内研修会 子どもを伸ばす学級経営
8月	前期授業研究(大研)から学んだことと今後の課題
12月	後期授業研究から学んだことと今後の課題 研究紀要検討
1月～2月	研究紀要作成
2月	来年度の研究のあり方について
3月	評価マトリックスの見直し 来年度の通知表の検討

☆研究全体会、推進委員会、三部会(授業研究部・カリキュラム研究部・理論研究部)は定期的に、また、随意に開いていく。

☆研究視察、研修会なども積極的に行っていく。